

オフィスで木製品活用目指す

福井県

福井県は2月23日、日華化学本社NICC Aイノベーションセンター(福井市)で「新たな木づかいモデル事業」について講演会を開き、県内の木材事業者を中心に約40人が参加した。山田敏博HUG社長(team Timberize理事)が講演した後、実際に桌産材を使用したミーティングスペースを設置した同センターや福井銀行花堂支店の

現地見学会も実施した。

野阪公哉福井県農林水産部県産材活用課参事は「木材を活用するにあたり、住宅だけでなく非住宅や民間企業など新しい需要を開拓する必要がある。2017年11月にはNIC

C Aイノベーションセンター、12月には福井銀行花堂支店にそれぞれ杉集成材を使用したミーティングスペースを設置した」とあいさつした。

山田社長は「木材の新たな利活用方法とその可能性について」の演題で講演した。山田氏はヨハネスブルクやサンパウロ、ニューヨークと東京の街並みを比較して、大都市は世

界のどこでも似ていて地域性や文化が見えにくいと指摘した。また、林業が盛んな地域を中心に、子ども向けの木工教室を通じて「木材は子どもでも扱える材料で、小学校高学年になればいすやテーブルを作ることができる。機械で大量生産された商品は便利だが、手作りのものは思入れができるので、地域性を表現した街並みを形作ることにつながるのではないかと話した。

そのほか、再利用や減築をキーワードに東京五輪に向けた木造競技場のデザイン、オフィスや店舗向け家具を紹介した。山田氏は、福井県出身で2017年から「ふくい県産材販路拡大協議会」に県産材活用のアドバイザーとして参加してい



野阪 参事

imberize理事)が講演した後、実際に桌産材を使用したミーティングスペースを設置した同センターや福井銀行花堂支店の